

# 都市防災・災害復興研究室とゼミナール活動概要

## 1.研究室構成

- ・学部3,4年生各4名，博士前期課程5名，博士後期課程1名（2020年度）

## 2.アウトリーチ活動

- ・これまでも多くの現場アウトリーチ活動を実施（気仙沼での高台移転地デザインワークショップなど）

## 3.演習スタジオ型授業

- ・学部生を中心にスタジオ形式（学期間を通じた教員と学生数名のゼミ形式授業）での現場実習型授業

## 4.災害・まちづくり調査活動

- ・東日本大震災（気仙沼，石巻，大船渡，野田村等）
- ・熊本地震（西原村，御船町，熊本市等）
- ・長野県北部地震（栄村），伊豆諸島（火山災害調査）



気仙沼高台デザインワークショップ



時限的市街地デザインゲーム



大船渡での地域営み再建インタビュー調査

# 八王子市 上柚木地区での地域防災活動と防災ワークショップ

## 1.地域特性

- ・多摩ニュータウン内（最寄り駅は南大沢）／集合住宅世帯が多い
- ・自治町会が未組織の地区もある。集合住宅管理組合が自主防災組織の主単位
- ・東日本大震災まで、地域としての防災活動は特になし

## 2.地域防災訓練の取組み (2011から2013)

2011年03月 東日本大震災発生。20%の世帯で当日帰宅できない家族あり  
2011年06月 地域としての防災訓練を3小中学校PTAが発意。  
2011年10月 第1回上柚木地区地域防災訓練（以降、2012,2013と実施）

## 3.ワークショップ形式へ (2014から2020)

【2014】上柚木防災グループトーク（第4回地域防災訓練）  
【2015,2016】子ども防災プログラム並行型 防災グループトーク  
【2017,2018】お父さん朝練Project並行型 災害時の水の確保を中心テーマに。

## 4.取組みのポイント

- ・青少年指導育成会+コミュニティスクールという母体組織
- ・実行委員メンバーのジェンダー特性（母親が主な担い手,父親は当日）
- ・毎年の振り返りと次年度の改善・チャレンジ
- ・子ども、祖父母の参加も想定したプログラム企画



# 2020年度の上柚木防災ワークショップ

## 防災ワークショップ2020 報告書

実施日 : 令和2年10月24日(土) 会場: 愛宕小学校 体育館  
 テーマ : コロナ禍でも災害は来る。どんな避難所がいい?  
 形態 : 個別体験型ワークショップ  
 主催 : 青少年対策上柚木地区委員会  
 協力 : 東京都立大学 災害復興・都市防災研究室 市古教授 市古ゼミの皆さま  
 時間 : 給水訓練見学 9:30~10:00 (八王子市役所水道課の方々による実施)

愛宕小(低学年)	10:00~10:30
(高学年)	10:30~11:00
上柚木小	11:00~11:30
上柚木中・地域の方	11:30~12:00

【参加者数(受付数)】  
 高校生以上 102名  
 中学生以下 23名  
 計 125名

### ～はじめに コロナ禍での感染拡大防止対策について～

今年度の防災ワークショップはコロナ禍であったため、以下の感染症対策を取りながら開催をした

#### <事前対策>

- 運営スタッフ、当日のお手伝いスタッフ(青少対防災実行委員、都立大関係者、愛宕小保護者、上柚木小保護者、上柚木中保護者)全員の2週間前からの健康観察(発熱の有無、体調の変化の有無等)を行う
- 当日、健康観察表の提出。体調不良のあった者は参加不可とする

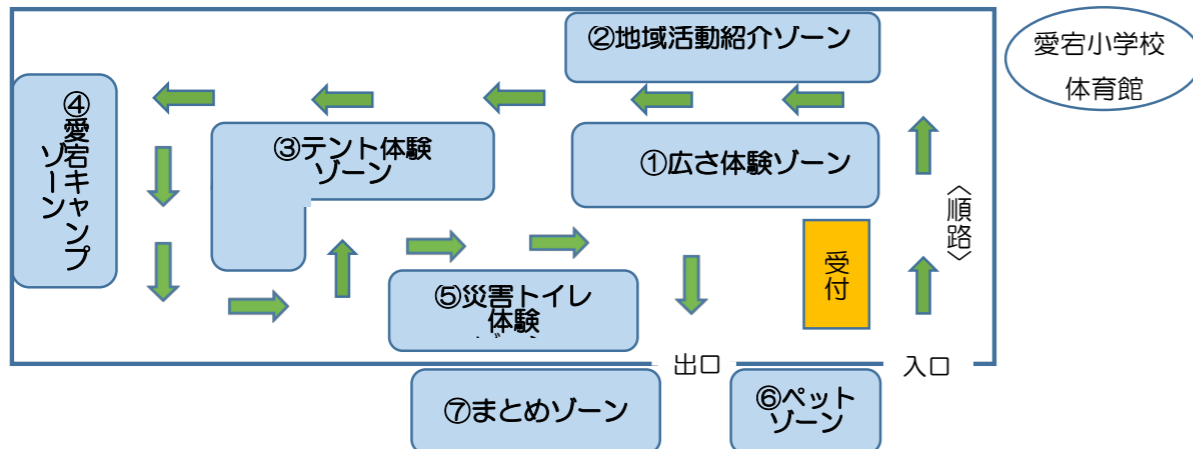
#### <当日対策>

- 来場時間の分散(所属により来場時間を30分ごとに区切る)
- 『避難者登録書』の参加者全員提出。万が一感染者が発生した場合に感染拡大防止に使用する目的
- 来場時間が分かるように、『避難者登録書』に時間帯ごとに色を変えて色ペンで印をつける
- 『避難者登録書』『ポストイット』を書く鉛筆は、そのまま使用者に持ち帰ってもらう
- スタッフ全員マスク着用。来場者のマスクの着用をお願い(チラシ、一斉メールでのお願い)
- 入場時、非接触型体温計による検温(37.5分以上の体温の場合、入場をお断りする)
- 入場時、アルコールによる手指消毒
- 会場は常時換気(出入り口、窓、キャットウォークの窓を全て開ける)
- 会場は入口から出口まで一方通行とし、来場者同士のソーシャルディスタンスを保つよう注意喚起の掲示
- 広さ体験ゾーンなど、触ったり座ったりする箇所にはアルコールを置き、都度スタッフが消毒をする

#### <内容>

◆愛宕小学校の体育館を仮想的避難所に見立てた【周回型の個別体験型ワークショップ】

→7つのゾーンに分かれており、順路に従って一方通行で見学、体験する



## 1) 広さ体験ゾーン

◆避難所での生活の広さを実際に体験できるゾーン

4つの広さの設定があり、実際の広さを体感できる

- 1人あたり1㎡ (一時避難場所)
- 1人あたり1.65㎡ (避難所の銀マットの広さ)
- 4人で4畳半 (4人で避難した時の広さ)
- 1人で4㎡ (ソーシャルディスタンスの避難所)

1人あたり1㎡



一時避難場所  
地震や災害が発生した時に様子を見るため、とりあえず避難する場所。公立の小中学校、大学などが指定されています。

1人あたり1.65㎡



避難所での1人あたりの面積  
1人あたり畳1畳(1.65㎡)として、その建物の面積より避難所の収容可能人数を算出します。

4人で4畳半



家族4人で避難した場合  
家族4人で避難した場合、4畳半の部屋の広さで家族で生活をする…と想像すると、イメージが湧きやすいのではないだろうか

1人あたり4㎡



感染しない避難所  
新型コロナウイルス感染症のような感染症が流行している中で感染しない避難所にする場合、1人あたり4㎡の広さが必要です。

◆避難所に持ち込む生活用品の展示

避難するときに持っていく荷物はどうする?何が必要?あると便利なものは?

～運営スタッフが『うちの避難用品』を公開し、展示をしました～

【避難所の生活用品の展示】



<避難所の生活用品を見ながら…>

『こういうものあった方が良いね』

『うちも用意しておこうかな』

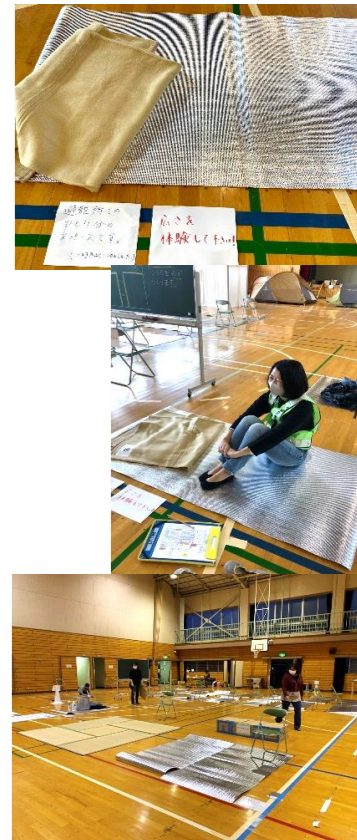
『子供用のおもちゃも必要なんだね』

<来場者から色々な感想や意見が出ていました>



室内履きを忘れた方に

【新聞紙スリッパの作り方も紹介しました】



# 2020年度の上柚木防災ワークショップへのアウトリーチ活動



## 2020年度の改善方針

- ・ 地域防災訓練を中止とする地域も多く、また学校運動会も中止、PTA活動も休止に近い状況で、本当にできるのだろうか!?
- ・ コロナ禍でも災害は来る。感染症対策としてグループワークでなく、家族で回る「ゾーン」方式で、また3つの部に時間差をつけて受付。

## 研究室としての 提案プログラム

### 【災害用トイレ実験：においとゴミの量を考えよう！】

- ・ 3種の凝固消臭剤でにおいとゴミ量にどんな違いが!?  
(新聞紙, 凝固吸収薬品, ペットシート) (ポリエチレン, ポリプロピレン)
- ・ 感染症流行下、会場で留まれるは短時間 (ワークショップ手法の要工夫)
- ・ わたしたちにもできることがあるはず!
- ・ カレー粉と水の配合, 新聞紙の切刻み方など, 事前に何回も試行工夫

## 学生の活動の様子

## 研究室としての貢献 とその意義

- ・ 地元子育て世代からの相談に応えたい, 子育て×地域活動のポテンシャルはすごい, 多摩ニュータウン内なのに, という学生の意識変容。
- ・ プロジェクトベースドかつアクティブラーニングという方法論的帰結
- ・ 長期間のコラボレーションにより, 学生をスムーズに地域派遣できる。